

私の現場と 流域治水プロジェクト

プロジェクト 最前線からの報告 第2弾

地域全体で水害対策に取り組む
「流域治水」の実現には

住民参加 が欠かせない

（佐波川の流域治水プロジェクトの最前線ががんばっている方に、仕事・取り組みの内容や、流域治水を進める上でみなさんへのメッセージをお聞きしていきます。（聞き手：山口河川国道事務所））



樋ノ口自治会の取り組み

樋ノ口地区を佐波川の下流側から望む

山口市徳地岸見「樋ノ口自治会」会長 坂本公昭さんのお話

問：樋ノ口自治会と地域防災について教えてください。

樋ノ口地区は佐波川右岸を河口から18kmさかのぼった防府市と山口市の境に位置する33世帯、約90人が暮らす集落です。徳地や防府市の中心部にもアクセスしやすく、佐波川と樋ノ口川沿いに田園が広がる自然豊かな地域です。

地域の主な産業は昔から農業です。過去から度々佐波川の氾濫による被害を受けている当地区ですが、日頃から佐波川からの農業用水の取水は大事で、川沿いに集落が形成されており、私の幼い頃は今よりもっと川との付き合いが深かったように思います。地域防災といえば地域自らが組織を作った当時は大雨洪水に備えた地域の見回り、水防活動や避難訓練を行っていました。

しかし、近年では人口減少・高齢化や価値観の多様化による地域コミュニティが低下し、住民の川への関心が低くなっているのか、こうした活動が少なくなったように思います。

問：地域防災についてどのような危機を感じていますか

近年、地球温暖化や想定を超える大雨の影響が大きくなっていることから、わたしたちの地域が水害に対して安全だとは言い切れないと思っています。当自治会でも高齢化により災害時要配慮者が増加している一方、避難をになう自治会の組織力も低下し、十分な活動が出来ているか不安を感じています。大雨、洪水、浸水、避難への理解など水害に関する意識を住民一人一人が日頃から持っているかも不安です。これは当自治会だけではなくどこでもあり得る話でしょう。

とても単位自治会の取組だけでは解決しません。行政（国県市）や民間等あらゆる人、モノ、組織、知識を総動員して治水を行う「流域治水」が求められます。当然、わたしたち住民も行政任せでなく、地域が主体となるべく意識改革が求められるでしょう。



樋ノ口地区にひろがる田園、写真すぐ右側には佐波川が流れている

私の現場と 流域治水プロジェクト

プロジェクト 最前線からの報告 第2弾

(メッセージ続き)

問:樋ノ口自治会ではどのような取組が必要と考えられますか

まずは災害に対する正しい知識を得る必要があるでしょう。目の前に佐波川、背後に山が迫っている当地区では、洪水、土砂災害など様々な災害が時には同時に襲ってくることも想定されます。一方、広大な水田地域は「田んぼダム」として豪雨時に雨水が一時的に田んぼに貯留され、洪水被害を軽減することも期待されます。

洪水や災害に備え、地域情報や行政から発信される情報を正しく理解し、地域内での防災意識を高めると同時に日頃から災害時の対応を話し合っておく事や早期避難を心がけ、いざという時に避難遅れを無くす必要があります。

当地区では甚大な災害であった平成21年災害（土砂災害、洪水）を受けて、過去に山口市役所から講師を招き、地域の防災力向上講演・勉強会を開催していましたが、我々を取り巻く防災情報は刻々と新しくなっています。今後は最新の情報に基づく講習会の開催や自主防災組織アドバイザー養成講座等への参加を考えています。

また、国土交通省の職員と合同で佐波川沿いを歩き、川や堤防等の状況を点検、把握しています。地域の集会場に災害対応資機材の備蓄も行っています。

引き続き、普段からの備えを充実し、水防活動・避難行動が円滑にできるようにしたいものです。

一方、安全な土地利用や水害に強い住まい方への取組も大事です。

支川の合流部や堤防が未設置のエリアでは河川からの氾濫による浸水深が大きくなり、被害が増大する可能性があります。このようなエリアでは行政から公表されている洪水ハザードマップなどの情報を確認するとともに危険な（地盤の低い）場所での新規の建築を回避したり、敷地を高くするなど水害に強い住まい方への工夫をする必要がありますね。

危険性を知らされないまま、無秩序な開発や無防備に住むことがないように行政と連携する必要があります。

実践的な流域治水になるためにみんなで知恵を出し合ひましょう。



地域の防災力向上講演・勉強会（樋ノ口自治会集会場にて）



地域住民と山口河川国道事務所が実施している合同点検（R3.5）



災害対策備蓄資機材
（樋ノ口自治会集会場にて）



普段の佐波川と樋ノ口川の合流点付近
中央は「清流の女王」アユの釣り人

コラム 「安全な土地利用や水害に強い住まい方」 については以下の項目が考えられます

- ・ 浸水が想定される区域の土地利用制限（災害危険区域の設定、例えば、建物の地盤の高さや建物の強度等）
 - ・ 家屋移転、住宅の高上げ（防災集団移転促進事業等）
 - ・ 高台の整備（避難場所等に活用）
 - ・ 土地利用に応じた内水対策の検討（雨水流出抑制対策、合流点処理検討等）
 - ・ 洪水の貯留や流出抑制対策の検討（遊水池、田んぼダム）
- ※ 各地域の特性に併せて検討する必要があります。

お話しのポイント



もっと詳しく知ろう！

地域住民が自ら水害の危険性を学び、備えておくとともに、お隣どうし助け合える体制の整備が大切。



川の防災情報
国土交通省

<https://www.river.go.jp/kawabou/>



山口市防災ガイド
ブック(Web版)
山口市
防災危機管理課

<https://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/4/83392.html/>

私の現場と 流域治水プロジェクト

プロジェクト 最前線からの報告 第2弾

(佐波川の流域治水プロジェクトの最前線でがんばっている方に、仕事・取り組み内容や流域治水を進める上でみなさんへのメッセージをお聞きしていきます。(聞き手：山口河川国道事務所))

木を見て森も見る それが

流域治水 につながる

周南市の森林整備事業

周南市 産業振興部 農林課 森林・有害鳥獣対策室

室長 六郎万淳一さんと 磯部千裕さん 村上胡太郎さんのお話

担当者の声



磯部さん

問：周南市ではどのような森林整備をしているのですか？

周南市の森林面積は、市の総面積の約78%にあたる50,955haで、その内訳は国有林1,237ha、民有林49,539haです。

森林の整備及び保全にあたっては、森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため、健全な森林資源の維持造成を推進しています。

具体的には、生物多様性の保全、地球温暖化の防止への役割を果たし、懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化にも考慮しつつ、適正な森林施業の実施や森林保全の確保に努めています。

問：森林・有害鳥獣対策室ではどのような業務をしているのですか？

周南市の森林整備を行っている組織は、周南市役所の3階にある産業振興部農林課森林・有害鳥獣対策室になります。市有林の整備・管理だけではなく、クマ出没の際の対応や、田畑を荒らすイノシシやヌートリアの駆除の許可等、みなさんの暮らしになじみのある業務を行っています。

森林・有害鳥獣対策室は室長をはじめ6人のうち、森林整備として間伐、伐採、造林等の事業計画、実施の委託を2～3人体制で、豊かで健全な森林を目標に掲げながら行っています。林業という専門性の高い分野ですが、和気あいあいとした雰囲気業務を進めさせて頂いています。

問：どのような森林整備を目標としていますか？

適切な間伐をしない森林の中は木が混み合い、お互いの成長を阻害します。そのような人工林は、下草や低木（以下、下層植生）が生えにくく、表土も痩せて容易に流出してしまい、土砂崩れにつながる恐れがあります。



豊かな森林が広がる周南の森、島地川ダムを経て佐波川に流れ、佐波川流域を潤す

望ましい森林とは下層植生が生育するための空間が確保され適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し、土壌を保持する能力や水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有するものです。

本林は島地川ダムの上流に位置しています。このようなダム等の施設上流部において、水源涵養、土壌保全機能が十分に発揮されることは治水・利水上も大変重要です。

佐波川流域全体に広く存在する森林は、昔から地域と共生しながら命を循環してきました。流域のみなさんが今後も安心して暮らせるために、森林→川→流域の環境が適切に保たれるようきめ細やかな森林整備を進めていくことが目標です。



村上さん（左）と磯部さん（右）の迷コンビで森に入っていく

私の現場と 流域治水プロジェクト

プロジェクト 最前線からの報告 第2弾

(メッセージ続き)

問: 森林整備と治水とはどのような関係があるのですか？

佐波川流域をはじめとする、森林と我々人間のかかわりあいの歴史を紐解くと、江戸時代までは樹木を建築用材、薪や炭などの燃料、農業用の肥料、飼料など生活のほとんどを森林に頼ったため、はげ山のような箇所をたくさん作ってしまいました。その結果、山が崩れ、土砂が河川に流れ込んで河川が氾濫するといった深刻な被害が発生し、問題になりました。

明治に入り、多くの水害が発生したことから、河川法（明治29年）、森林法と砂防法（明治30年）という、いわゆる治水三法が成立しました。

森林の荒廃を防がなければ流域の人々の生活が守られない、という危機感があったのだと思います。我々の業務は、治水にも貢献していることを実感しています。

問: 森林の荒廃を防ぐにはどのようなことをするのですか？

夏から秋にかけて、周南市の森林では冬の間伐に備えて作業道の設置を行っています。作業道の設置にセオリーはありません。山を見て、地形を生かしながら木の根をなるべく傷めないように設置し、間伐作業へつなげていきます。

間伐と木の成長は深い関係があります。本林では間伐の手法として列状間伐（木を列状に伐採）しています。このように間伐すると空いたスペースにいずれ枝が伸び、残った木の成長が促進されます。

このように長いスパンで森を見て、効率的かつ効果的な整備・保全を進めています。



冬の間伐作業 伐採木の搬出にあたっては、地表の損傷を極力抑えるよう作業道ルート、搬出方法を考える



グラップル付フォワーダによる伐採木の収集運搬 「高性能林業機械」の導入により効率的な集積作業を行っている



列状間伐（木を列状に伐採）から1年が経過した林の様子 林内が明るくなり下層植生が生育しているのが分かる

ヘルメット

リュックサック
(飲み物を忘れずに)

鉈（ナタ）

クマ鈴！

安全靴



山の装備 それぞれ必需品です



お話しポイント 長いスパンで、効率的かつ効果的な森林整備・保全を進めることで、はじめて森林がもっているさまざまな機能を持続的に発揮することができます。

もっと詳しく知ろう！



森林のもつ土砂災害防止機能／土壌保全機能について
林野庁

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kei/kaku/tamenteki/con.2.3.html>



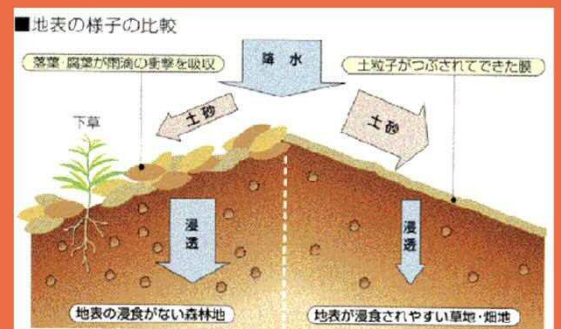
周南市の農林施策について
周南市産業振興部
農林課

<http://www.city.shunan.lg.jp/sos/hiki/33/>

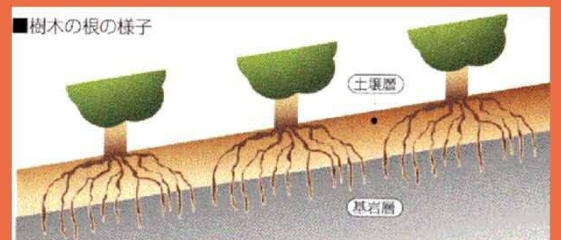
森林のもつ

土砂災害防止機能／土壌保全機能

とは



森林の下層植生や落枝落葉が地表の浸食を抑制する



樹木が根を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ

(林野庁ホームページより引用)